

ミカン生育情報

千葉県
平成 28 年 6 月号

平成 28 年 1～5 月の気象

本年の 1 月～5 月の月平均気温は、平年を上回った。特に 2 月と 4 月は平年及び前年より 1℃以上高かった。5 月に関しては平年より 0.8℃高いが、前年より 0.3℃低かった。1～5 月の平均気温は 11.6℃で、平年の 10.7℃に比べ 0.9℃、前年の 11.1℃に比べ 0.5℃高かった（表 1）。

降水量は 4 月を除く月で平年並みか少なかった。1 月は平年の 66%（30mm 減）であった。5 月は平年の 79%（37mm 減）、前年の 192%（68mm 増）であった。1 月～5 月の合計降水量は 660mm で平年より 9%（64mm）少ないが、前年並みであった。

日照時間は 1 月、5 月は平年より多く、他の月は平年並みか少なかった。5 月の日照時間は平年の 123%であった。1 月～5 月の合計日照時間は 826 時間で平年及び前年並みであった。

5 月の半旬ごとの平均気温は、第 4 半旬を除く半旬で平年を上回った。第 5 半旬では降雨が無かった。日照時間は、第 1、3、4、5 半旬で平年を上回った。

発芽期以降の 4 月及び 5 月に最大瞬間風速 20m を超える日があった。また、本年は台風がまだ発生してないため、台風の接近は無かった。

表 1 平成 28 年 1～5 月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1		6.6	5.9	6.0	58	88	120	184	170	130
2		7.7	6.4	6.4	99	102	89	150	152	167
3		9.8	9.4	10.3	165	184	195	149	157	199
4		15.4	13.9	13.8	198	172	167	126	172	130
	1	18.8	16.5	18.1	21	23	0	45	30	34
	2	18.0	17.2	17.2	29	24	1	21	28	31
	3	18.2	17.3	18.7	23	41	9	49	27	35
5	4	17.4	18.1	19.5	30	22	34	37	28	8
	5	20.0	18.4	18.6	0	33	2	49	29	28
	6	19.1	18.9	20.8	40	35	30	18	35	43
	平均/合計	18.6	17.8	18.9	142	179	74	218	177	179
1 月～5 月平均/合計		11.6	10.7	11.1	660	724	644	826	826	804

樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期は、早生温州が 4 月 8 日、普通温州は 4 月 16 日であり、早生温州は平年より 2 日早く、普通温州は平年より 2 日遅かった（表 2）。開花期は、開花盛期で見ると、早生温州が 5 月 8 日、普通温州は 5 月 13 日で、平年より 6 日及び 5 日早かった。

暖地園研における園全体の着花量は、早生温州、普通温州とも平年より少ない。昨年は表年であったため、本年の樹勢はやや悪い。冬期に寒波があったが（日最低気温が1月25日に-3.9℃、1月26日に-3.0℃）、寒害による著しい落葉や枯れこみはなかった。着花量は裏年のため園全体では少ないが、着花のある樹は十分に着花している。開花期以降も天候に恵まれ樹及び果実の生育は良好である。

表2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

種類	発芽期 (月.日)			開花期 (月.日)								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
早生温州	4. 8	4.10	4.14	5. 3	5. 9	5. 5	5. 8	5.14	5.11	5.12	5.18	5.14
普通温州	4.16	4.14	4.14	5. 6	5.13	5. 9	5.13	5.18	5.15	5.18	5.23	5.19

平年：平成3年から27年の25年間の平均値

6～7月の栽培管理

夏肥の施用 早生温州、普通温州ともに6月上旬に夏肥を施用する。基準量は窒素、りん酸、加里を10a当たり成分量で、早生温州はそれぞれ5、7、7kg、普通温州はそれぞれ5、5、9kgである。遅効きしないよう即効性の肥料を使用する。

摘果 摘果は2～3回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では7月上旬、普通温州では7月中旬に行い、その後9月までに仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。摘果程度の基準は、1果当り葉数で早生温州は30枚、普通温州は25枚である。

病虫害の防除 ※防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

本年の果樹カメムシ類の発生は、南房総市ほか県南地域で平年並みである。しかし、本年は越冬している果樹カメムシ類が多く、気温が高いため、今後発生量が増加する可能性が高い。日暮れ頃にこまめに園を見まわり、園への飛来が増加してきた場合は防除を行う。

果実を加害するカタツムリ類やナメクジ類の樹への登上的阻止には、樹幹に銅線や銅板を巻く。ゴマダラカミキリ成虫は6～7月に発生が多いため、見つけ次第捕殺する。

ミカンハダニは5月下旬から増加し、7月中下旬に発生ピークを迎える。防除にはマシン油乳剤（97%）150倍液を使用するが、7月以降に散布すると、果実の糖度が下がる場合があるので、遅れないようにする。夏期防除の判断は、ハダニが発生している葉が全体の葉の30%となった時を目安とする。

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥は適切に行い樹勢を良好に管理するように努める。

黒点病は水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や農薬散布を行う。なお、農薬の登録内容が温州ミカンと中晩柑で異なるため注意をする。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>